



大学院博士前期課程	ディプロマポリシー	電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的スキルを有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。										95 単位
	記当単位数合計	13 単位	20 単位	記当単位数合計	14 単位	10 単位	10 単位	6 単位	8 単位	6 単位	8 単位	95 単位
M2 M1	前期・後期	● 必修科目		M2 M1		前期・後期		M2 M1		前期・後期		95 単位
	分分野	共通横断		専門横断		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		機械工学分分野
カリキュラムポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門」に「エレクトロニクス・情報分分野」「電機・制御分分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。</li> <li>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技術を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</li> <li>「共通横断」では数理分野、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にたった的確なものの方と考え方を確立する。</li> </ul>											
アドミッションポリシー	<p>「エレクトロニクス・情報分分野」「電機・制御分分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しむことなく邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトロニクス・情報分分野」「電機・制御分分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</li> <li>自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していける意欲のある人</li> <li>人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人</li> </ul>											
ディプロマポリシー	<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工學部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を組み重ねる関心と意欲を保持できる。〔関心・意欲〕〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕</li> <li>2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い知識とスキルを身に付けそれを活用できる。〔知識・理解・技能〕〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕</li> <li>3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔理解・応用・技能〕〔専門分野の知識・技術(詳細は学科OP)〕</li> <li>4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔協働・表現〕〔相互に理解し議論するコミュニケーション能力〕</li> <li>5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔意欲・協働〕〔他者との協働による課題解決力〕</li> <li>6) 地球的な視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔理解・応用・倫理〕〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕</li> </ol> <p>◆注(3)を明確化したものが、各学科のOPとなる</p> <p>電気電子システム工学科</p> <p>電気電子システム工学科では、工學部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(A) 社会で必要とされるエンジニアとしての基礎力である数学・自然科学の基礎知識と電気電子工学分野の基礎知識に習熟しそれらを活用することができる。〔基礎学力〕</li> <li>(B) 電気電子システム工学の基礎知識を活かし、技術的な課題を抽出し解決に導くことができる。〔知識・理解・論理的思考力〕〔知識・理解・論理的思考力〕</li> <li>(C) 理論的な思考に基づき自分の意見を明確に発表でき、他者との討論を通して互いの意見を理解しながらチームで課題解決の作業をすすめることができる。〔コミュニケーション能力〕〔コミュニケーション能力〕</li> <li>(D) 持続可能な社会を実現するために、未知の課題に対応できるよう、幅広い学修経験に基づいて自主継続的に学修することができる。〔継続学修〕〔継続学修〕</li> <li>(E) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負う使命と倫理的責任に基づいて行動することができる。〔技術者倫理〕〔技術者倫理〕</li> </ol>											
分分野別到達目標	<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的・社会的素養を身に付け、意欲的な態度で知識を身に付け、内面的なコミュニケーション能力を高め、他者との協働による課題解決に貢献できること、心身の健康を維持増進する力を養えること。</p> <p>工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学の基礎知識を身に付け、深い人間性を涵養し、他者との協働による課題解決に貢献できること、心身の健康を維持増進する力を養えること。</p> <p>数学や他の自然科学関連のより複合的な知識とスキルを身に付けそれを活用できる。〔知識・理解・技能〕〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕</p> <p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的・社会的素養を身に付け、意欲的な態度で知識を身に付け、内面的なコミュニケーション能力を高め、他者との協働による課題解決に貢献できること、心身の健康を維持増進する力を養えること。</p>											
分分野別到達目標	<p>電気回路および電磁気学の基本式を理解し、数式を用いて表現でき、さまざまな各種計測技術を駆使して電気・電子工学における諸問題を克服できる力を身につけている。</p> <p>問題の提起、解決法の探求、実験的検証に至るまでの方法論を提案でき、それに基づいた技術の開発へと展開できる能力を身につけている。</p> <p>諸定理を用いて電気回路の回路計算ができ、アナログ回路からデジタル回路に至るまでの各種電子回路の計算が応用する能力を身につけている。</p> <p>電子・光デバイスの動作原理や理論を理解し、これを作製したり特性の計測などに活用する能力を身につけている。</p> <p>電気機器の構造や動作原理を理解し、発電・送配電ならびにエネルギー変換の幅広い分野において電気を活用できる能力を身につけている。</p> <p>ソフトウェア/ハードウェアの基礎を理解でき、計算機システムや通信システム等の専門基礎のほか、制御工学を組み合わせて多面的に活用できる力を身につけている。</p>											
記当単位数合計	13 単位	20 単位	記当単位数合計	18 単位	13 単位	10 単位	14 単位	18 単位	20 単位	99 単位		
2 5 4	前期・後期	卒業研究		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		16 単位
1	前期・後期	卒業研究		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		48 単位
1	前期・後期	卒業研究		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		25 単位
1	前期・後期	卒業研究		前期・後期		前期・後期		前期・後期		前期・後期		10 単位
分分野	キャリア形成の基礎	工学の基礎	数理学と教育	その他連携科目	分分野	電気電子基礎	実験・演習・設計	電気電子回路	材料・物性・デバイス	エネルギー・電気機器	システム科学・通信	年間履修上限単位数 44単位
カリキュラムポリシー	<p>＜工學部カリキュラム・ポリシー＞ 工学部ディプロマ・ポリシーに「電機・電子工学」に関する能力を達成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開発し、学習者が主体的に学修できる科目を選択取り入れることと、科目間の連携を重視した体系的なカリキュラムを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、法的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い知識を養う。</li> <li>2) 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</li> <li>3) 実験・演習(授業演習/Project Based Learning, PBL)科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。</li> <li>4) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての倫理観を涵養し、社会に貢献する能力を身に付ける。</li> <li>5) 卒業研究の専攻分野に関する卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。</li> <li>6) 注(3)の(3)を明確化したものが、各学科のOPとなる</li> </ol>											
アドミッションポリシー	<p>電気電子システム工学科は、今日の電気・電子工学の進歩に対応でき、明日の電気・電子工学を開拓できる知識と実践力を持つエンジニアを世に送り出すことを目的としています。電気・電子工学は目覚ましい発展を遂げてその領域も多岐にわたり、単なる一分野の専門知識だけでは不十分で、今後は幅広い専門分野の知識がますます重要となります。さらには、人や環境に調和した技術の開発が求められています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 広く電気・電子工学に興味を有する人で、行動力のある実践的なエンジニアをめざす人</li> <li>(2) これまでに学んできた知識を進化させて「ものづくり」に応用する意欲ある人</li> <li>(3) 人や地球環境に配慮した工学技術に興味を持ち、持続可能な社会の発展に貢献する技術者をめざす向上心のある人</li> </ol>											



ディプロマポリシー	・電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 ・電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。																								
配当単位数合計	13単位			20単位			14単位			10単位		6単位		8単位		6単位		8単位		95単位					
M2 M1	● 必修科目			グローバルテクノロジー特論b 1 材料・デバイス開発実務特論 3 グローバルテクノロジー特論a 1			エンジニアリング・コミュニケーション特論 1 CAD/CAM特論 2 自動車工学特論 2			ソフトウェア特論 2 通信システム・方式特論 2		エネルギー・環境工学特論 パルスパワー工学特論 2		材料設計工学特論 2		加工学特論 2		95単位							
前期・後期	応用数学特論 2 応用物理学特論 2			技術経営特論 2 外国語特論 2			航空宇宙工学特論 2 国際ナショナルプレゼンテーション 1 グローバル・リーダーシップ特論 2			半導体エレクトロニクス特論 2 表示デバイス工学特論 2 フォトニクス工学特論 2 電子物性特論 2		光機能工学特論 2 半導体デバイス工学特論 2 集積回路設計特論 2		電磁波工学特論 2 情報工学特論 2		パワーエレクトロニクス特論 2 メカトロニクス特論 2 プラズマ工学特論 2		最適システム工学特論 2 システム制御工学特論 2 インテリジェントメカニズム特論 2		振動工学特論 2 材料実験力学特論 2 機能材料工学特論 2		内燃機関特論 2 流体工学特論 2 伝熱工学特論 2		機械制御特論 2 接合工学特論 2 航空工学特論 2	
分野	数理科科目			学際科目			専門横断			光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作			
カリキュラムポリシー	・「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 ・「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 ・「共通横断」では数理科分野、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にたつた確かなもの見方と考え方を確立する。																								
アドミッションポリシー	「エレクトロニクス・情報分野」「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しむことなく邁進できる学生を求めている。 (求める人物像) ・「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																								

ディプロマポリシー	4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <工学部> 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)】 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】 6) 地球的な視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】 ◆注「3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる <電気電子システム工学科> 電気電子システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 社会で必要とされるエンジニアとしての基礎力である数学・自然科学の基礎知識と電気電子工学分野の基礎知識に習熟しそれらを活用することができる。【基礎学力】 (B) 電気電子システム工学の基礎知識を活かし、技術的な課題を抽出し解決に導くことができる。【知識・理解・論理的思考力】 (C) 理論的な思考に基づき自分の意見を明確に発表でき、他者との討論を通じて互いの意見を理解しながらチームで課題解決の作業をすすめることができる。【コミュニケーション能力】 (D) 持続可能な社会を実現するために、未知の課題に対応できるよう、幅広い学修経験に基づいて自主継続的に学修することができる。【継続学習】 (E) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負う使命と倫理的責任に基づいて行動することができる。【技術者倫理】																					
アドミッションポリシー	【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表示内容																					

分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的・科学的素養・能力を、数学・物理・化学・生物・情報・環境との共生を念頭に、自らの意思・判断で獲得できるとともに、心身の健康を維持推進する意欲を醸成する。				工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理・化学・生物・情報・環境との共生を念頭に、自らの意思・判断で獲得できるとともに、心身の健康を維持推進する意欲を醸成する。				工学や他の自然科学関連の基礎的知識を習得し、それを応用できる能力を身に付ける。				グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。				電気回路および電磁気学の基本を理解し、数式を用いて表現でき、さまざまな各種計測技術を駆使して電気・電子工学における諸問題を克服できる力を身につけている。				問題の提起、解決法の探求、実験的検証に至るまでの方法論を提案でき、それを新たな技術の開発へと展開できる能力を身につけている。				諸定理を用いて電気回路の回路計算ができ、アナログ回路からデジタル回路に至るまでの各種電子回路の計算ができる能力を身につけている。				電子・光デバイスの動作原理や理論を理解し、これを作製したり特性の計測などに応用する能力を身につけている。				電気機器の構造や動作原理を理解し、発電・送配電ならびにエネルギー変換の幅広い分野において電気を活用できる能力を身につけている。				ソフトウェア・ハードウェアの基礎を理解でき、計算機システムや通信システムの専門基礎のほか、制御工学を組み合わせて多面的に活用できる力を身につけている。				卒業に必要な単位数124単位			
配当単位数合計	-				-				-				18単位				13単位				16単位				14単位				18単位				20単位				99単位							

2 5 4	哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本語の歴史(2) 法(日本国憲法)(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーストラリアⅠa(1) オーストラリアⅠb(1) 工学コミュニケーション英語基礎Ⅰ(1) 工学コミュニケーション英語基礎Ⅱ(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションⅠ(1) 英語プレゼンテーションⅡ(1) 中国語コミュニケーションⅠ(1) 中国語コミュニケーションⅡ(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)				微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) 物理学c(2) 物理学d(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 確率と統計Ⅰ(2) 確率と統計Ⅱ(2) 淀川と環境(1) 宇宙・地球・生命一探究演習(1)				級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2) 道徳教育(2)(~2018)				キャリアデザイン(1) インターンシップ(2)				4 前期・後期				3 前期・後期				2 前期・後期				1 前期・後期				卒業研究				-															
1	世界と人間(2) 文章表現基礎(2) ペーンク・イングリッシュa(1) ペーンク・イングリッシュb(1) オーストラリアⅠa(1) オーストラリアⅠb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)				解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 解析学Ⅳ演習(1) 線形代数Ⅰ・Ⅱ(各2) 物理学a・b(各2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ(各1) 淀川と人間(1) エンジニアリング探求演習(1)				グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1) OIT概論(1)				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期				2 前期・後期			
分野	キャリア形成の基礎				工学の基礎				数理科学と教育				その他連携科目				分野				電気電子基礎				実験・演習・設計				電気電子回路				材料・物性・デバイス				エネルギー・電気機器				システム科学・通信											
カリキュラムポリシー	<工学部カリキュラム・ポリシー> 工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を目的としたカリキュラムを編成する。 1) 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 2) 継続した英語教育によって、英語による基礎的コミュニケーション能力を養う。 3) 必修・選択必修を含む科目によって、専門分野の基礎知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。 4) 実験・演習・探究演習(Project Based Learning, PBL)科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。 6) 学士課程教育の集大成とする卒業研究によって、論文を中心とする理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 ◆注「3)4)5)6)」を明細化したものが、各学科のDPとなる																																																			
アドミッションポリシー	電気電子システム工学科は、今日の電気・電子工学の進歩に対応でき、明日の電気・電子工学を開拓できる知識と実践力を持つエンジニアを世に送り出すことを目的としています。電気・電子工学は目覚ましい発展を遂げてその領域も多岐にわたり、単なる一分野の専門知識だけでは不十分で、今後は幅広い専門分野の知識がますます重要となります。さらには、人や環境に調和した技術の開発が求められています。 (求める人物像) (1) 広く電気・電子工学に興味を有する人で、行動力のある実践的なエンジニアをめざす人 (2) これまでに学んできた知識を進化させて「ものづくり」に応用する意欲のある人 (3) 人や地球環境に配慮した工学技術に興味を持ち、持続可能な社会の発展に貢献する技術者をめざす向上心のある人																																																			

● 必修科目  
 ■ 選択必修科目  
 □ クォーター科目の開講期

ディプロマポリシー	・電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 ・電気電子工学に関する専門的技術を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。																						
配当単位数合計	13単位			20単位			14単位			10単位		12単位		6単位		8単位		6単位		8単位		97単位	
M2 M1 前期・後期	● 必修科目 グローバルテクノロジー特論b 1 材料・デバイス開発実務特論 3 グローバルテクノロジー特論a 1 応用数学特論 2 応用物理学特論 2			ロボティクス特論 2 航空宇宙工学特論 2 インターナショナルプレゼンテーション 1 フィールド研究 4			エンジニアリング・コミュニケーション特論 1 CAD/CAM特論 2 自動車工学特論 2 グローバル・リーダーシップ特論 2 フィールドプラクティス 4			M2 M1 前期・後期 半導体エレクトロニクス特論 2 表示デバイス工学特論 2 フォトニクス工学特論 2 電子物性特論 2		ソフトウェア特論 2 通信システム・方式特論 2 計算機工学特論 2 電磁波工学特論 2 情報工学特論 2		エネルギー・環境工学特論 2 パルスパワー工学特論 2 電力工学特論 2 パワーエレクトロニクス特論 2 メカトロニクス特論 2 プラズマ工学特論 2		材料設計工学特論 2 振動工学特論 2 材料実験力学特論 2 機能材料工学特論 2		加工学特論 2 機械制御特論 2 接合工学特論 2 航空工学特論 2		97単位			
分野	数理科目			学際科目			専門横断			光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作	
カリキュラムポリシー	・「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 ・「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 ・「共通横断」では数理科目、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にわたる確かなもの見方と考え方を確立する。																						
アドミッションポリシー	「エレクトロニクス・情報分野」「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しむことなく邁進できる学生を求めている。 (求める人物像) ・「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 ・自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 ・人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人																						

ディプロマポリシー	4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <工学部> 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。【関心・意欲】【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。【知識・理解・技能】【技術者に求められる文・理・情報系の素養】 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】【専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)】 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】【他者との協働による課題解決力】 6) 地球的な視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。【理解・応用・倫理】【社会に対し能動的に貢献する行動力】 ◆注「3)」を明細化したものが、各学科のDPとなる <電気電子システム工学科> 電気電子システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 社会で必要とされるエンジニアとしての基礎力である数学・自然科学の基礎知識と電気電子工学分野の基礎知識に習熟しそれらを活用することができる。【基礎学力】 (B) 電気電子システム工学の基礎知識を活かし、技術的な課題を抽出し解決に導くことができる。【知識・理解・論理的思考力】 (C) 理論的な思考に基づき自分の意見を明確に発表でき、他者との討論を通じて互いの意見を理解しながらチームで課題解決の作業をすすめることができる。【コミュニケーション能力】 (D) 持続可能な社会を実現するために、未知の課題に対応できるよう、幅広い学修経験に基づいて自主継続的に学修することができる。【継続学習】 (E) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負う使命と倫理的責任に基づいて行動することができる。【技術者倫理】																					
アドミッションポリシー	【 】はディプロマ・サブメントシステムにおける表示内容																					

分野別到達目標	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的・科学的視点から、専攻の基礎知識と応用技術の活用能力を身に付け、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【知識・理解・技能】 工学や他の自然科学関連の基礎知識を身に付け、専門的知識や技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】			工学や他の自然科学関連の基礎知識を身に付け、専門的知識や技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【知識・理解・技能】 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】			グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的・科学的視点から、専攻の基礎知識と応用技術の活用能力を身に付け、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【知識・理解・技能】 工学や他の自然科学関連の基礎知識を身に付け、専門的知識や技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。【理解・応用・技能】 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。【協働・表現】 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。【意欲・協働】			電気回路および電磁気学の基本を理解し、数式を用いて表現でき、さまざまな各種計測技術や駆使して電気・電子工学における諸問題を克服できる力を身につけている。			問題の提起、解決法の探求、実験的検証に至るまでの方法論を提案でき、それを新たな技術の開発へと展開できる能力を身につけている。			諸定理を用いて電気回路の回路計算ができ、アナログ回路からデジタル回路に至るまでの各種電子回路の計算ができる能力を身につけている。			電子・光デバイスの動作原理や理論を理解し、これを作製したり特性の計測などに応用する能力を身につけている。			電気機器の構造や動作原理を理解し、発電・送配電ならびにエネルギー変換の幅広い分野において電気を活用できる能力を身につけている。			ソフトウェア・ハードウェアの基礎を理解でき、計算機システムや通信システムの専門基礎のほか、制御工学を組み合わせて多面的に活用できる力を身につけている。			卒業に必要な単位数124単位		
配当単位数合計	-			-			-			18単位			13単位			16単位			14単位			18単位			20単位			99単位		

ディプロマポリシー	哲学(2) 倫理学(2) 美術史(2) 文学(2) 日本語の歴史(2) 法(2) 経済学(2) 歴史学(2) 心理学(2) 日本の伝統と文化(2) 国際関係論(2) 日本の文化と社会Ⅰ(2) 日本の文化と社会Ⅱ(2) オーストラリア文化Ⅰa(1) オーストラリア文化Ⅱb(1) 工学コミュニケーション英語基礎a(1) 工学コミュニケーション英語基礎b(1) キャリア・イングリッシュⅠa(1) キャリア・イングリッシュⅠb(1) キャリア・イングリッシュⅡa(1) キャリア・イングリッシュⅡb(1) 英語プレゼンテーションa(1) 英語プレゼンテーションb(1) 中国語コミュニケーションⅠ(1) 中国語コミュニケーションⅡ(1) 生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各1)			微分方程式Ⅰ(2) 微分方程式Ⅱ(2) 物理学c(2) 物理学d(2) ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2) 知的財産法概論(2) 品質管理(2) 標準と統計Ⅰ(2) 標準と統計Ⅱ(2) 淀川と環境(1) 宇宙・地球・生命一探究演習(1)			級数とフーリエ解析(2) ベクトル解析(2) 線形代数Ⅲ(2) 線形代数Ⅳ(2) 複素解析Ⅰ(2) 複素解析Ⅱ(2) 応用数学Ⅰ(2) 応用数学Ⅱ(2) 実践化学(2) 地球システムと人間(2) 環境生物学(2) 人間発達と人権(2) 教育原論(2) 道徳教育(2)(～2018)			キャリアデザイン(1) インターンシップ(2)			4 前期・後期			3 前期・後期			2 前期・後期			1 前期・後期			卒業研究			99単位		
ディプロマポリシー	世界と人間(2) 文章表現基礎(2) ペーンク・イングリッシュa(1) ペーンク・イングリッシュb(1) オーストラリア文化Ⅰa(1) オーストラリア文化Ⅱb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)			解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 解析学Ⅳ演習(1) 線形代数Ⅰ・Ⅱ(各2) 物理学a・b(各2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ(各1) 淀川と人間(1) エンジニアリング探究演習(1)			グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1) OIT概論(1)			2 前期・後期			2 前期・後期			2 前期・後期			2 前期・後期			25単位								
ディプロマポリシー	世界と人間(2) 文章表現基礎(2) ペーンク・イングリッシュa(1) ペーンク・イングリッシュb(1) オーストラリア文化Ⅰa(1) オーストラリア文化Ⅱb(1) 海外語学研修(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2) 健康体育Ⅰ(1) 健康体育Ⅱ(1)			解析学Ⅰ演習(1) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 解析学Ⅳ演習(1) 線形代数Ⅰ・Ⅱ(各2) 物理学a・b(各2) 物理学実験(2) 化学(2) 地球科学(2) 生物科学(2) 基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ(各1) 淀川と人間(1) エンジニアリング探究演習(1)			グローバルテクノロジー論a(1) グローバルテクノロジー論b(1) OIT概論(1)			2 前期・後期			2 前期・後期			2 前期・後期			2 前期・後期			12単位								

ディプロマポリシー	・電気電子システム工学科は、今日の電気・電子工学の進歩に対応でき、明日の電気・電子工学を開拓できる知識と実践力を持つエンジニアを世に送り出すことを目的としています。電気・電子工学は目覚ましい発展を遂げてその領域も多岐にわたり、単なる一分野の専門知識だけではなく、今後は幅広い専門分野の知識がますます重要となります。さらには、人や環境に調和した技術の開発が求められています。																					
アドミッションポリシー	(求める人物像) (1) 広く電気・電子工学に興味を有する人で、行動力のある実践的なエンジニアをめざす人 (2) これまでに学んできた知識を進化させて「ものづくり」に応用する意欲のある人 (3) 人や地球環境に配慮した工学技術に興味を持ち、持続可能な社会の発展に貢献する技術者をめざす向上心のある人																					

大学院 博士前期課程	ディプロマポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術までを幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。</li> <li>電気電子工学に関する専門的スキルを有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。</li> </ul>												97 単位						
	配当単位数合計	13 単位	20 単位				配当単位数合計	14 単位	10 単位	12 単位	6 単位	8 単位	6 単位		8 単位	97 単位				
M2 M1	前期・後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●: 必修科目</li> </ul>												97 単位						
	分野	数理科目	学際科目				分野	光・エレクトロニクス	情報・通信	エネルギー・機器	制御・システム	材料・機械工学	熱・流体		設計・製作	年間履修上限単位数なし				
カリキュラムポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達して議論できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。</li> <li>「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。</li> <li>「共通横断」では数理分野、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点にたつた確かなもの見方と考え方を確立する。</li> </ul>																			
アドミッションポリシー	<p>「エレクトロニクス・情報分野」「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考え方に基いて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しむことなく邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「エレクトロニクス・情報分野」「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人</li> <li>自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人</li> <li>人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人</li> </ul>																			
ディプロマポリシー	<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>〈工学部〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔関心・意欲〕【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】</li> <li>人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれらを活用できる。〔知識・理解・技能〕【技術者に求められる文・理・情報系の素養】</li> <li>専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔理解・応用・技能〕【専門分野の知識・技術（詳細は学科DP）】</li> <li>技術者および社会人として互いにコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔協働・表現〕【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】</li> <li>社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔意欲・協働〕【他者との協働による課題解決力】</li> <li>地球規模の視野に立ち、持続可能な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動力がある。〔社会貢献〕【社会に能動的に貢献する行動力】</li> </ol> <p>◆注：(3)を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>〈電気電子システム工学科〉</p> <p>電気電子システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 社会で必要とされるエンジニアとしての基礎力である数学・自然科学の基礎知識と電気電子工学分野の基礎知識に習熟しそれらを活用することができる。【基礎学力】</p> <p>(B) 電気電子システム工学の基礎知識を活かし、技術的な課題を抽出し解決に導くことができる。【知識・理解・論理的思考力】【知識・理解・論理的思考力】</p> <p>(C) 理論的な思考に基づき自分の意見を明確に発表でき、他者との討論を通じて互いの意見を理解しながらチームで課題解決の作業をすすめることができる。【コミュニケーション能力】【コミュニケーション能力】</p> <p>(D) 持続可能な社会を実現するために、未知の課題に対応できるよう、幅広い学修経験に基づいて自主継続的に学修することができる。【継続学修】【継続学修】</p> <p>(E) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負う使命と倫理的責任に基づいて行動することができる。【技術者倫理】【技術者倫理】</p>																			
分野別到達目標	<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的知識をもとに思考・判断力、言語の基礎知識を活用した円滑なコミュニケーション力があること、自身の健康を維持増進する準備を講じている。</p> <p>工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、自然環境との共生を念頭にいた意思・判断ができること、実践的に他者と協働するなかで専門分野における学修意欲を増進する。</p> <p>数学や他の自然科学関連のより理論的な知識を理解・応用できるとともに、深い人間性を備えた社会の発展に寄与する思考・判断があり実践的な活動環境で発揮できる。</p> <p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力を、より実践的な活動環境で発揮できる。</p> <p>問題の提起、解決法の探求、実験的検証に至るまでの方法論を提案でき、それを新たな技術の開発へと展開できる能力を身につけている。</p> <p>諸定理を用いて電気回路の回路計算ができ、アナログ回路からデジタル回路に至るまでの各種電子回路の計算ができる能力を身につけている。</p> <p>電子・光子デバイスの動作原理や理論を理解し、これを作製したり動作特性の計測などに応用する能力を身につけている。</p> <p>電気機器の構造や動作原理を理解し、発電・送配電ならびにエネルギー変換の幅広い分野において電気を活用できる能力を身につけている。</p> <p>ソフトウェア・ハードウェアの基礎を理解でき、コンピュータシステムや通信システムの専門基礎のほか、制御工学を組み合わせて多面的に活用できる力を身につけている。</p>																			
配当単位数合計	-												配当単位数合計	18 単位	13 単位	16 単位	14 単位	18 単位	20 単位	99 単位
学部	通年	卒業研究												16 単位						
	前期・後期	<p>2 5 4</p> <p>電機設計/GAD製図 2</p> <p>電気電子システムPBL 2</p> <p>技術者倫理 2</p> <p>電磁界理論 2</p> <p>電機システムII 2</p> <p>LSI工学 2</p> <p>電気電子システム実験c 3</p> <p>電気電子システム実験c 3</p> <p>アナログ電子回路 2</p> <p>電子回路工学II 2</p> <p>基礎電気計測 2</p> <p>電磁気学III 2</p> <p>電磁気学II 2</p> <p>電気数学 2</p> <p>電気電子システム入門 2</p> <p>電機システムII 2</p> <p>電子回路工学I 2</p> <p>電子回路III 2</p> <p>電子回路II 2</p> <p>電気回路I 2</p> <p>電機システムI 2</p> <p>電力システムII 2</p> <p>電力システムI 2</p> <p>エネルギー変換工学 2</p> <p>電気法規および施設管理 2</p> <p>パワーエレクトロニクス 2</p> <p>プラズマエレクトロニクス 2</p> <p>オプトエレクトロニクス 2</p> <p>電機システムI 2</p> <p>高電圧・パルスパワー工学 2</p> <p>制御工学II 2</p> <p>情報通信工学 2</p> <p>計算機ソフトウェア 2</p> <p>制御工学I 2</p> <p>電波・通信法規 2</p> <p>ネットワーク工学 2</p> <p>計算機ハードウェア 2</p> <p>システム工学 2</p>													46 単位					
前期・後期	<p>1</p> <p>世界と人間(2)</p> <p>文章表現基礎(2)</p> <p>ベシク・イングリッシュa(1)</p> <p>ベシク・イングリッシュab(1)</p> <p>オーストラリア・コミュニケーションI a(1)</p> <p>オーストラリア・コミュニケーションI b(1)</p> <p>海外語学研修(2)</p> <p>日本語I(2)</p> <p>日本語II(2)</p> <p>健康体育I(1)</p> <p>健康体育II(1)</p> <p>解析学I演習(1)</p> <p>解析学II(2)</p> <p>解析学II演習(1)</p> <p>解析学III(2)</p> <p>解析学III演習(1)</p> <p>線形代数I・II(各2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理I・II(各1)</p> <p>淀川と人間(1)</p> <p>エンジニアリング探求演習(1)</p> <p>グローバル化/グローバル論a(1)</p> <p>グローバル化/グローバル論b(1)</p> <p>OIT概論(1)</p> <p>基礎電気計測 2</p> <p>電磁気学III 2</p> <p>電磁気学II 2</p> <p>電気数学 2</p> <p>電気電子システム入門 2</p> <p>電機システムII 2</p> <p>電子回路工学I 2</p> <p>電子回路III 2</p> <p>電子回路II 2</p> <p>電気回路I 2</p> <p>電機システムI 2</p> <p>電力システムII 2</p> <p>電力システムI 2</p> <p>エネルギー変換工学 2</p> <p>電気法規および施設管理 2</p> <p>パワーエレクトロニクス 2</p> <p>プラズマエレクトロニクス 2</p> <p>オプトエレクトロニクス 2</p> <p>電機システムI 2</p> <p>高電圧・パルスパワー工学 2</p> <p>制御工学II 2</p> <p>情報通信工学 2</p> <p>計算機ソフトウェア 2</p> <p>制御工学I 2</p> <p>電波・通信法規 2</p> <p>ネットワーク工学 2</p> <p>計算機ハードウェア 2</p> <p>システム工学 2</p>												25 単位							
分野	キャリア形成の基礎	工学の基礎				数理科学と教育	その他連携科目	分野	電気電子基礎	実験・演習・設計	電気電子回路	材料・物性・デバイス		エネルギー・電気機器	システム科学・通信	年間履修上限単位数44単位				
カリキュラムポリシー	<p>〈工学部カリキュラム・ポリシー〉</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を図り体系的かつバランスを構築する。</p> <p>1) 人文社会科学、自然科学、情報技術、経営、知的財産および環境共生などに関する科目において、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2) 組織的な英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3) 必修・選択科目の履修を促す科目によって、専門分野の基礎知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4) 実験・実習・探求演習(Project Based Learning)科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5) 技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感や倫理観を醸成し、社会に能動的に貢献する行動力を養う。</p> <p>6) 学生実習等の機会を設ける卒業研究によって、論文をまとめる理論的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注：(3)(4)(5)(6)を明確化したものが、各学科のDPとなる</p>																			
アドミッションポリシー	<p>電気電子システム工学科は、今日の電気・電子工学の進歩に対応でき、明日の電気・電子工学を開拓できる知識と実践力を持つエンジニアを世に送り出すことを目的としています。電気・電子工学は目覚ましい発展を遂げその領域も多岐にわたり、単なる一分野の専門知識だけでは不十分で、今後は幅広い専門分野の知識がますます重要となります。さらには、人や環境に調和した技術の開発が求められています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>広く電気・電子工学に興味を有する人で、行動力のある実践的なエンジニアをめざす人</li> <li>これまでに学んできた知識を進化させて「ものづくり」に応用する意欲のある人</li> <li>人や地球環境に配慮した工学技術に興味を持ち、持続可能な社会の発展に貢献する技術者をめざす向上心のある人</li> </ol>																			

